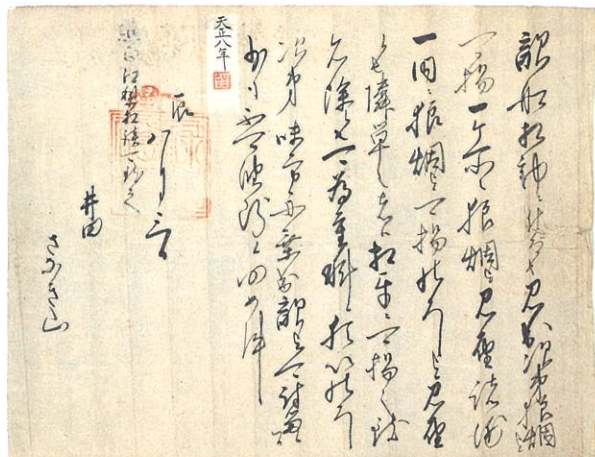


戦国時代末期の駿・豆国境で武田水軍との海戦を繰り広げていた北条氏は
武田水軍の来襲に備え、狼煙による緊急連絡体制を
浦々一致協力して構築するよう指示されていました。

その旨が記されている沼津市井田の高田家に伝わる虎の印判状



沼津市明治史料館 所蔵

現代語訳

「敵船を発見したらすぐ狼煙を挙げること。
一カ所の狼煙をみたら、諸浦一同、
狼煙をあげ、狼煙を見た者は
相互に確認の狼煙をあげるべし。
見届けを怠った者は重罪に科す。
猶、狼煙次第味方の船を出し、
打ち留めること、油断なきよう。」

真城山には狼煙台があり、敵船を発見したら狼煙をあげて諸浦に知らせていたことが
わかります。この文書によれば狼煙は、**相互確認**であり、
水軍は速やかに出撃するための合図であるとともに、敵方に対しては、
『こちらはすでに発見しており、**出撃済みである**』という威圧の行動とも考えられます。

春



夏



秋



冬



戦を目前に控え、狼煙が立ち昇る風景を浮世絵風
に表現しました。通常の2枚分のサイズです。

各1枚
600円

ご協力いただきました！

静岡県立沼津西高等学校書道専攻の
生徒さんにご協力いただきました！

池谷 公司 先生



沼津市文化財センター 原田様に
アドバイスを頂き制作しました！

沼津駅・
沼津観光協会



●真城山

御城印販売先

【販売・企画】

NPO法人 沼津観光協会

〒410-0801

静岡県沼津市大手町1-1-1 アントレ2階

TEL/FAX 055-964-1300/964-1301

website

